

〈朝倉農学大系〉 第9巻『土壤学』 1刷正誤表\_2024.12.13

ページ	行	誤	正
19	表2.3	斜方輝石	直方(斜方)輝石
41	上から2行目	腐植 (humu)	腐植 (humus)
134	下から7行目	溶質フラックス $q_d$	溶質フラックス $q_{dc}$
135	上から9行目	無視できる場合、 溶質のフラックス $q_{cc}$	無視できる場合、 移流による溶質のフラックス $q_{cc}$
172	図7.12	バクテリアと糸状菌の活動	バクテリアと放線菌の活動
234	下から3行目	$9.6 \pm 05 \text{ Pg Cy}^{-1}$	$9.6 \pm 0.5 \text{ Pg Cy}^{-1}$
239	上から5行目	年間GPPが	年間NPPが
242	上から9行目	余剰Nの多くは脱窒により無害な $N_2$ になるもの、一部は $N_2O$ となり地球温暖化や成層圏オゾンの破壊に寄与し、またN溶脱は水圈汚染の主因となる (14.4.2項参照) .	余剰Nの多くは脱窒または溶脱により系外へ移行する。脱窒されたNの多くは無害な $N_2$ になるものの、一部は $N_2O$ となり地球温暖化や成層圏オゾンの破壊に寄与する。またN溶脱は水圈汚染の主因となる (14.4節参照) .